なるざ 健康新聞

NO.66 平成 27 年 5 月

〒910-4103 福井県あわら市二面２丁目 302 番地
訪問看護ステーションなるざリハビリサービス
TEL 0776-77-2282 ホームページ www.naruza.jp/

== もくじ ==

1．認知症の方への接し方 ～part.2～
2．製靴所の紹介

担当：窪田・袖

認知症の方への上手な接し方～part.2～

今回は、認知症の方とコミュニケーションをとる際に注意したいポイントを挙げてみました。ぜひ実行してみてくださいね。

〈認知症の方とのコミュニケーションのポイント〉

個人的な話は 45 ㎝の距離で	認知症の方と介護者との距離は、近すぎても遠すぎても NG。個人的な話をするときは密接距離、45～120 ㎝が適切とされています。不穏状態の方にはボディタッチも有効です。
難聴を考慮し、聞き取りやすい工夫を	高齢者の多くは老人性難聴。高い声、唇や舌をあまり動かさない話し方は、聞き取りにくいので注意。また音がどの方向から聞こえてくるのかわかりにくいので、認知症の方の視界に入り、目を見て話しましょう。静かに話せる環境作りも大切です。
始まりと終わりのあいさつはしっかりと	物や人の名前を言うのは難しくても、「おはよう」「すみません」などのあいさつはできることが多いです。多少、会話がかみ合わなくても、始まりと終わりのあいさつはしっかりとするように心がけましょう。
うなずき・あいづちで会話をしやすく	自分の話に相手がうなずいてくれたり、あいづちを打ってくれたりすると、気分よく話せるものです。認知症の方の話を、関心をもって聞いていることを伝えるために、自分が感じたままを素直に言葉に表しましょう。
話を引き出すよりも“ついていく”	相手の話に、ひたすらついていくほうが、話を展開させることができると言われています。自分の話に耳を傾け、深い関心をもって聞いてくれる相手だと話がしやすくなります。
話のテーマを維持しよう	認知症の方は、今、自分が何のテーマで話しているのかを覚えておくことが難しいため、話が収拾不能におちいりがちです。話がそれすぎたら、「ところで、」と本来のテーマに戻すようにしましょう。
じっくりと言葉を待つことが大切	高齢になると、考えをまとめたり、記憶を呼び起こしたりするのに時間がかかるものです。沈黙があっても焦らず、表情を観察し、次の言葉が出るのをじっくりと待ちましょう。口元がかすかに動いたりするなどの表情の変化を見逃さないように。
表情の変化を見逃さず、気持ちを確認	高齢になると、表情筋の働きが弱くなり、表情の変化が表れにくくなるため、表情や身振りに注意するだけでは不十分です。淡々と話す、それほど嬉しそうに見えなくても、気持ちを確認することが大切です。

後半は次月・・・（＾＾）

雨にも負けず！

　四月末から過ごしやすい日が増えてきましたね。
気の早い話ですが「北陸は来月半ばに梅雨入り」と予想されています。
そこで今回は、着脱をしやすい靴に改造または自分に合った靴を
作成してくれる製作所の紹介をさせていただきます！

市販の長靴を…
↓

甲からすねの部分を切り込み、水を通さない合成皮革（黒・茶・紺・ピンク・緑・銀など）のベロでつないで太さを広げています。

履き方はスキー靴の要領で、足先までスポッと入れた後、合皮のベロをたたんで甲とすねの部分をベルト（握力が弱い方でも使いやすいベルクロ仕様）で締めます。

足の長さが左右で違うため、靴底の高さを調整してあります。

支柱付きの固定力の強いタイプです。

お子様用は成長に合わせて制作します。

長尾製靴所（靴のナガオ）

住所：福井県福井市四ツ井 2-9-5
営業時間：9:00～18:30
定休日：日曜・祝日

お問い合わせ：**0776-52-6880**

info@nagao-shoes.jp